

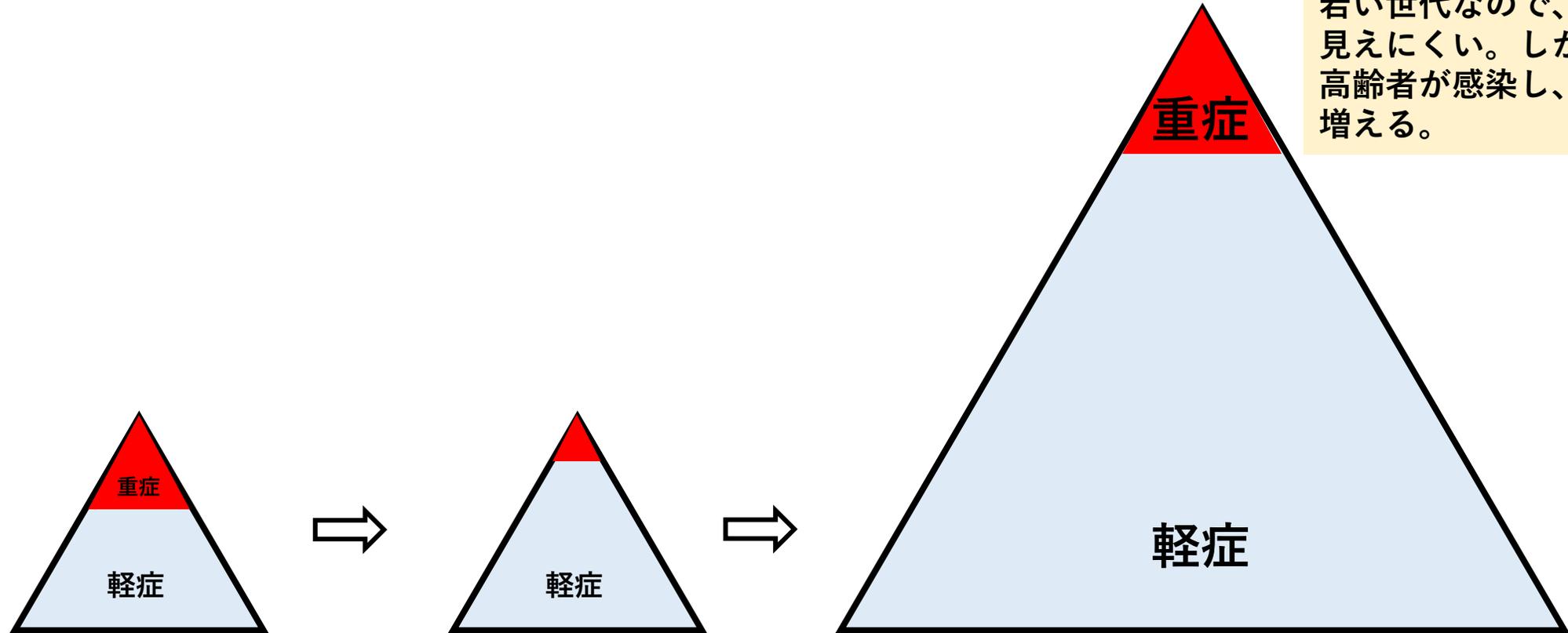
オミクロン株流行のもとで必要な対策とは？

全日本剣道連盟・顧問医師

宮坂昌之

オミクロン株の病原性は低いように見えるが、感染者が増えると死亡者が増える。

感染初期では感染者の多くは若い世代なので、重症者が見えにくい。しかし、いずれ高齢者が感染し、重症者が増える。



これまでの株

オミクロン株では
重症者の割合が少ない

弱い株であれば共存できるはず

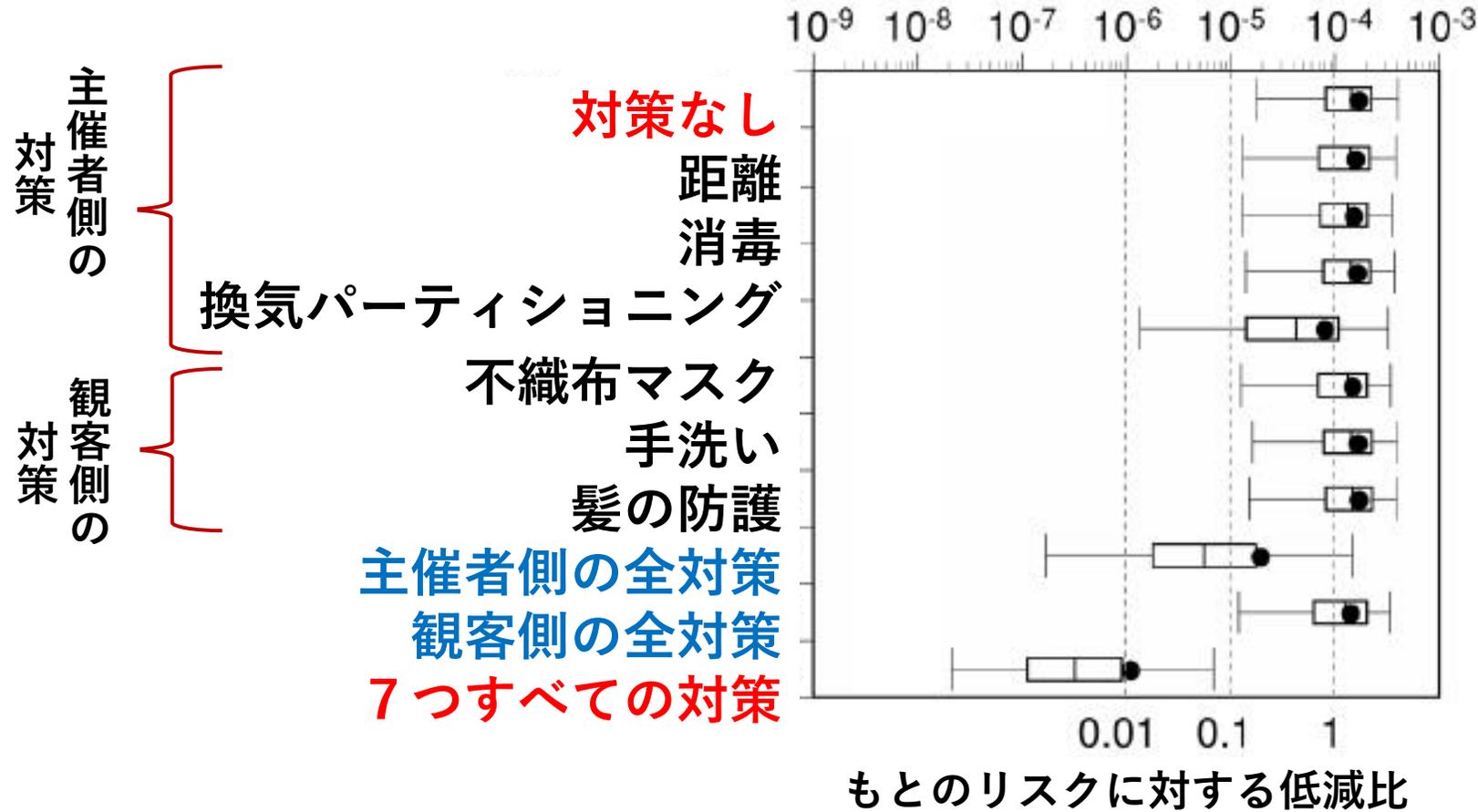
感染者数が大きく増えれば、
弱毒株でも結局、重症者数は増える

弱い株でも感染を制御できない限り、
社会への影響、損失は大きくなる可能性がある

対策は重ねて行った時に初めて大きな効果が出る (オリンピック時のシミュレーション結果)

感染リスク (全体)

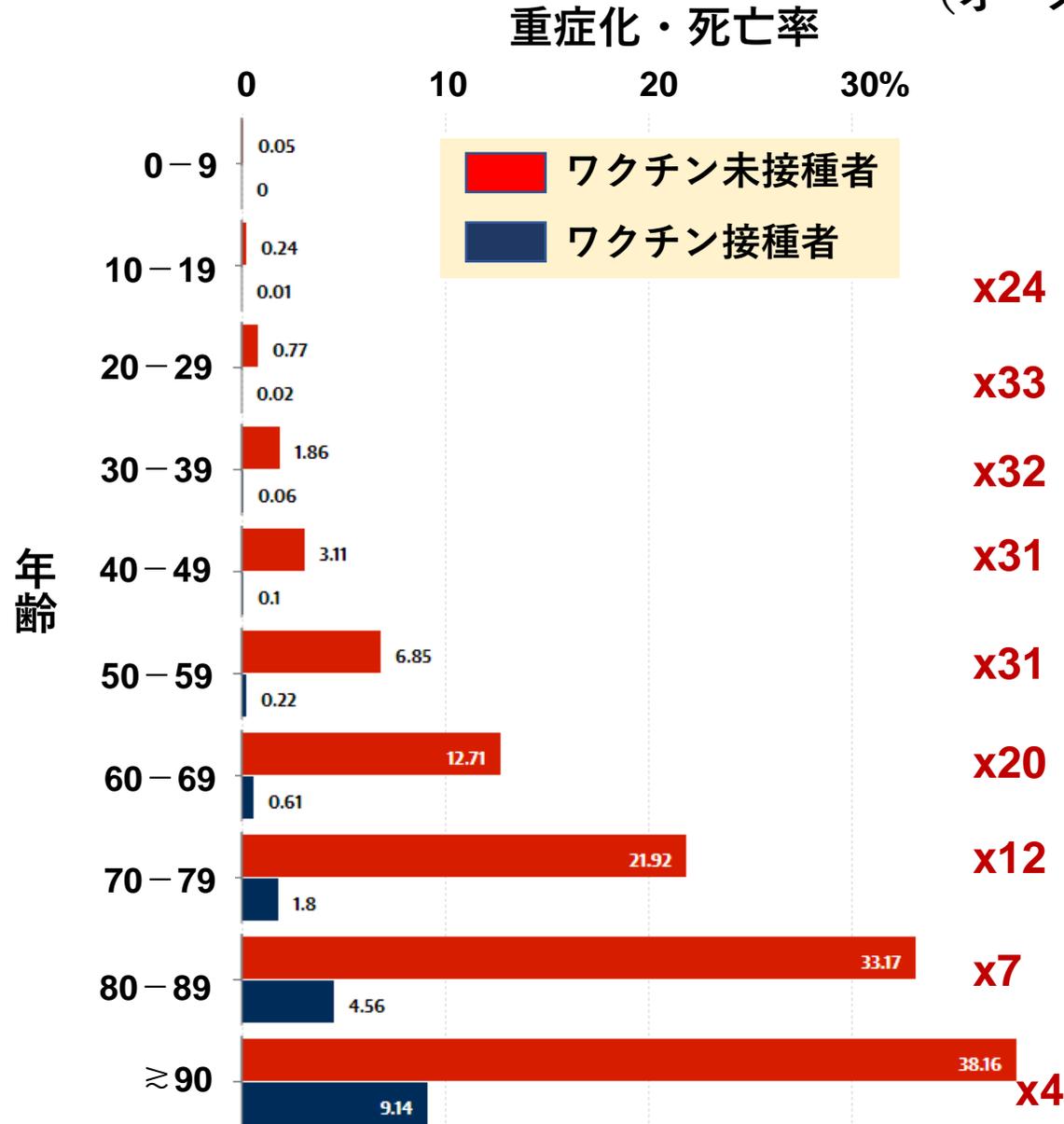
※ $10^{-4} = 1$ 万分の1



個々の対策によるリスク低減度が少なくても、いくつかの対策を併せて行うことにより、感染リスクを99%下げることができる

ワクチンは、全年齢層で、重症者・死亡者の発生を抑える

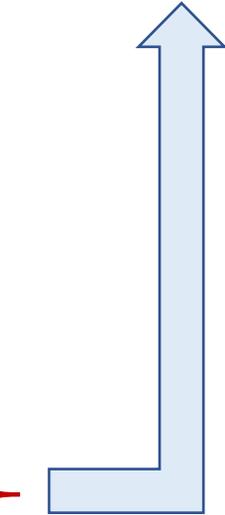
(オーストラリア：2021年6月～2022年1月1日のデータ)



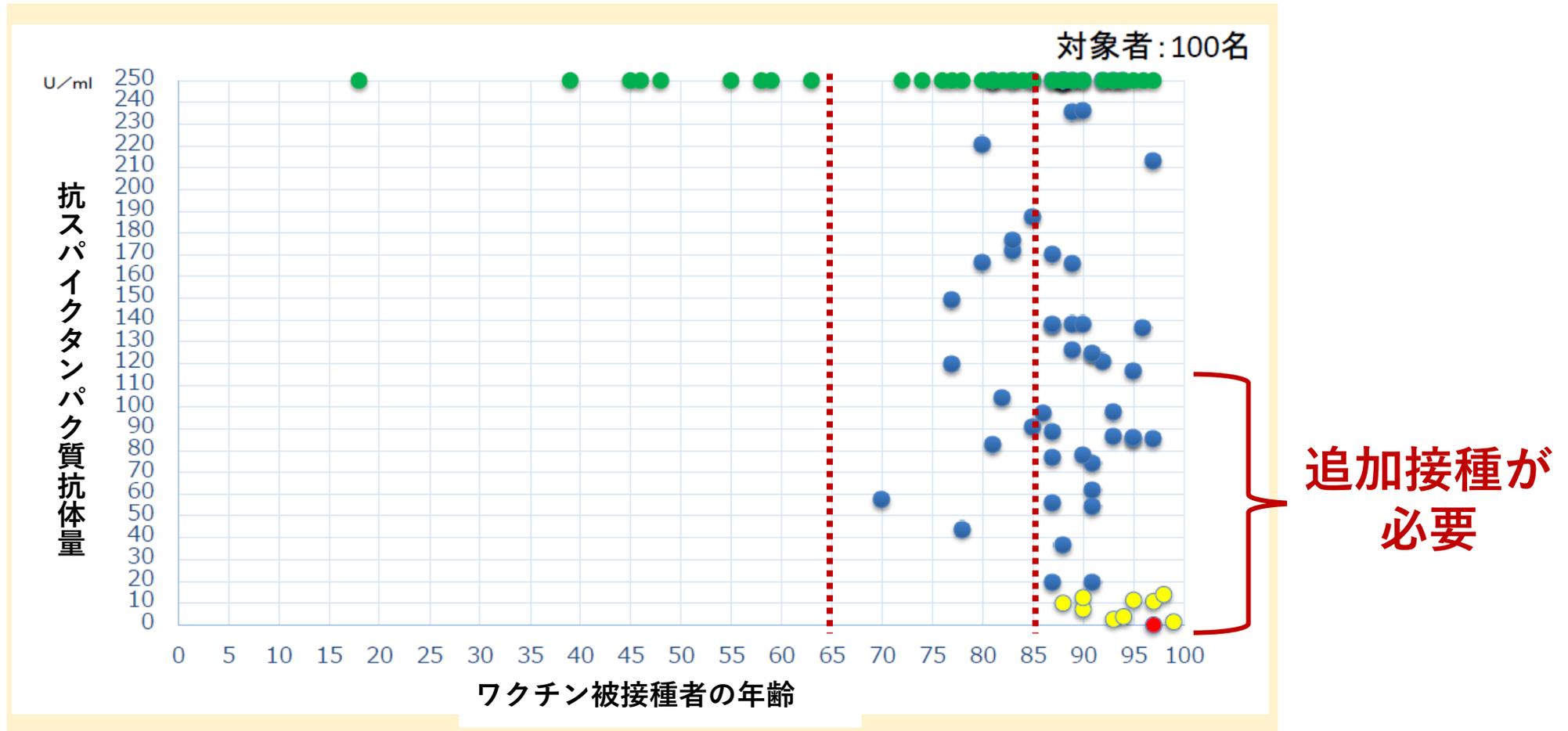
ワクチン接種による重症化・死亡率阻止効果は10~60代までは高い。70才以上では効果が下がるが、それでも有効である。

10~69才までの世代では
ワクチン未接種者の
重症化・死亡率は
ワクチン接種者と比べて
20~30倍多い

70才以上の世代では
ワクチン未接種者の
重症化・死亡率は
ワクチン接種者より
4~12倍多い

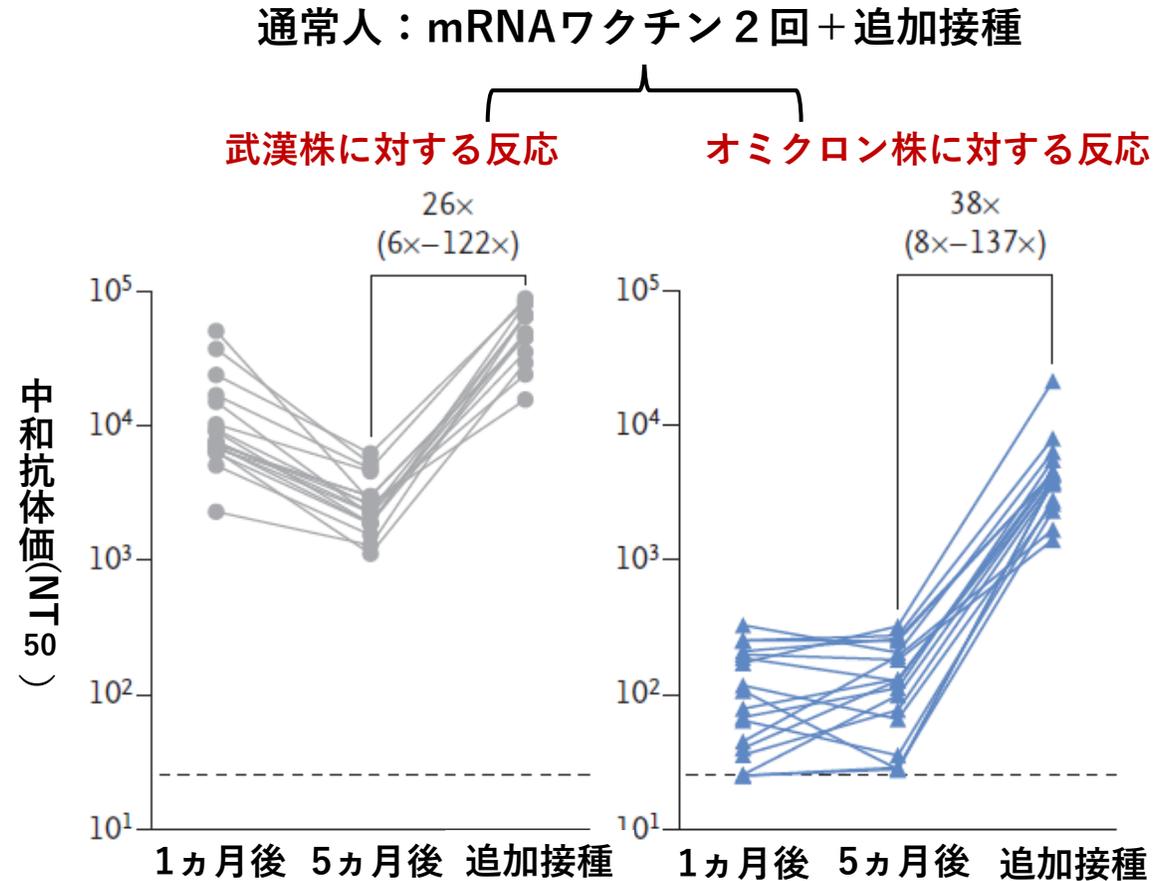


ワクチンへの反応の仕方はおおむね年齢依存的。ただし、個人差が大きい



65才以下ではおおむね良く抗体を作るが、70才を過ぎると、抗体産生量が下がる傾向があり、85才以上では抗体産生量がきわめて低い人が居る。ただし、個人差が大きいことに注意。

オミクロン株に対してmRNAワクチンの追加接種は有効



健常人では、mRNAワクチン接種によりオミクロン株に対する中和抗体ができる。
抗体価が低いですが、追加接種で高い中和抗体価が得られる → **追加接種は現在のワクチンで当面OK。**

まとめ

1. オミクロン株は侮ることができない強敵である（特に高齢者にとって）
2. ワクチン接種やマスク着用だけでなく、複合的な対策が必要。
3. オミクロン株流行が始まってから剣道での感染事例が起きていることは間違いない。一部は稽古における感染が否定できない。
4. オミクロン株はエアロゾル感染をすることから、特に、道場での送風・換気が必須 = 工業用扇風機（送風機）の使用を勧める。
5. 海外で始まっているコロナ共存のやり方だと、感染者が急増し、後になって後遺症患者が増え、さらに、高齢層の死亡者数が増える。